



学校と家庭ではぐくむ道德教育

道德の時間は教科の時間と違い、「生き方を学ぶ時間」です。道德の時間を通して、①自分の感じたことや考えたことを表現する力、②いろいろな人の発言を聞き、自分の考えを広げたり深めたりする力、③人の気持ちを深く理解する力、④自分の魅力を増やす力、をつけてほしいと願っています。また、本校は平成24年度・25年度に「京の未来創造校」の研究校として、「道德教育」の研究を進めてくことになりました。生徒たちとともに、教師も一緒に考え成長できたらと思います。

また、今年度も、各学年の道德の時間に出た感想文をこの「Heart to Heart」でご紹介していきたいと思います。この通信が、子どもたちとの話のきっかけになり、学校と家庭でともに道德教育を育んでいけたら幸いです。

それでは、4月、5月に行った内容を生徒の感想文を中心に一部紹介します。

1年生



「人生で大切なものは何か」

テーマ：高い目標

中国の孔子が次のようなことを言いました。「一言とはいえ、生涯行うべきものはありますか？」と弟子がたずねると、「それは思いやりだろう。自分の望まないことを人にしたりするなということだ。」と先生は、おっしゃった。孔子のこの言葉を使って、「人生で大切なものはなにか」を考えました。

- 私はみんなの意見も聞き、他の人たちは、どんな考えを持っているのかがよく分かりました。その中で、私が人生の中で大切だなと思ったものは、「家族」と「心」と「友達」です。これからも家族や友達、自分の心を大切にしていこうと思いました。
- 今日、改めて「人生で大切なものはなにか」と考えてみると、いろいろなことが出てきました。でもやはり、孔子の言ったことがすごく大切だと思います。今日考えて出した答えは、もうこの授業で捨てるのではなく、頭の中にしまっておいて、また考えることができたらいいいと思いました。

2年生



「いつわりのバイオリン」

テーマ：弱さ・醜さの克服

小さな工房で納得のいく音を求めてひたむきにバイオリン作りに励むフランク。いつしか彼のつくるバイオリンに魅せられ、次々と弟子が集まる。フランクの域に届こうとする弟子ロビンも日々、バイオリン作りに精を出す。そんなある日、有名なバイオリニストからフランクの元へバイオリンの制作依頼が……。二度とないチャンスを目の前にしたフランクは……。

●フランクはロビンから手紙をもらって、また、バイオリン作りをやり始めると私は思います。自分はいんな悪いことをしてしまったのに、ロビンは自分のことを尊敬してくれているから、自分もロビンに負けないようにがんばろうって思えたはずです。悪いと思ってやってしまっ、あとから後悔することはだれにでもあります。その後、どうするかが大事だと思いました。



●フランクみたいに、自分で自分を押しさえられず、自分に負けてしまったことで、大事な弟子を失った。だから、ほくも自分に負けられない心を作らないといけないと思った。

3年生



「闇の中の炎」

テーマ：規範意識

なかなかアイデアが浮かばないまま展覧会の作品作りに悩んでいた主人公理沙はある画集からヒントを得て描き進める。しかし思うように作品が進まない。父との夕食の会話の中で理沙は気付く。「自分がダメとおもったらダメなんだ……。」何がダメと思ったのか、みんなで考えました。

●「別に少しぐらいアイデアをもらうぐらい構わないんじゃないの？」という感想を持ちました。でも理沙さんの立場になってみると、中盤の「これでいいの？」という苦悩は本当によくわかります。きっと「これって、自分の絵じゃない」とか「気分が進まない」とかたくさんのことを思ったと思います。最終的に「もう一度描きなおす」という決断をした理沙さんは「自分にとって一番正しいと思う選択」をしたのだと思います。自分によい選択ができた理沙さんはよかったと思いました。

●正しい＝自分だと思っています。きっと主人公はこれは自分ではない、これは他人だと思ったんだと思います。最後に主人公は鉛筆をもって絵を描きだしますが、きっとそれは「自分」を描きたかったんだと思います。